

平成27年度 西日本高速道路株式会社事業評価監視委員会  
議事要旨

1. 開催日時 平成27年12月1日(火) 14:00~16:00
2. 場所 西日本高速道路株式会社 19階 会議室
3. 出席者 [委員] 出野委員、帯野委員、斎藤委員、戸田委員、中瀬委員  
長谷川特別委員、平井特別委員  
[弊社] 石塚社長、酒井専務、奥平常務、高倉常務、芝村常務 他
4. 議 事

下記の区間に関する再評価について審議

《再評価3区間》

- ・近畿自動車道敦賀線(福知山~舞鶴西) ※4車線化
- ・四国横断自動車道阿南四万十線(鳴門~高松市境) ※4車線化
- ・九州横断自動車道長崎大分線(長崎芒塚~長崎多良見) ※4車線化

＜近畿自動車道敦賀線(福知山~舞鶴西)の再評価について＞

➤ 主な意見

- ・当該区間は、部分的に追越車線が設置されているものの上り坂が多く十分とは言えない。運転者の負担軽減や安全性の更なる向上など、4車線化の必要性は十分にある。
- ・中国道や名神高速の代替のみではなく、京都縦貫道の代替路としても重要な路線である。
- ・舞鶴若狭道の全線開通により、中京圏からの観光客が増加していると感じている。観光地をより快適に周遊するなど、4車線化に寄せる期待は大きい。
- ・舞鶴港にある海上自衛隊と伊丹など内陸にある駐屯地とのアクセス向上など、安全保障や防災の観点からも当該道路は重要な道路であり、機能強化が必要と思われる。

➤ 結果

- ・対応方針(原案)については了承する。

＜四国横断自動車道阿南四万十線(鳴門~高松市境)の再評価について＞

➤ 主な意見

- ・現状では、交通混雑期の渋滞時など救急車両でさえ高速道路の利用を敬遠している状況であり、命の道の確保という点からも4車線化することが重要である。
- ・南海トラフ地震などにより太平洋側が被害を受けた場合、瀬戸内海側から物資等の支援をする「四国くしの歯作戦」が考えられているが、その軸となる高松道の一部区間が2車線というのは非常に弱点になる。四国全体の災害に対する備えとしても4車線化による機能強化が必要。また、4車線化のみではなく、四国全体の防災性

向上のためには8の字ネットワークが必要であり、命の道のネットワーク整備を進めて頂きたい。

- ・四国では高速道路ネットワークの整備に伴い、高速バスの利用の拡大が顕著である。定時性の向上につながる4車線化の意義は大きい。

➤ 結果

- ・対応方針（原案）については了承する。

＜九州横断自動車道長崎大分線（長崎芒塚～長崎多良見）の再評価について＞

➤ 主な意見

- ・災害時のリダンダンシー機能の確保、安全性の更なる向上など、4車線化の必要性は十分にある。
- ・空港へのアクセスとして高速バスの利用が増加していることから重要な道路であり、4車線化する必要がある。
- ・長崎バイパスにおいて無料化社会実験を行われた際、当該区間の交通量に大きな変化が見られなかったことから、長崎道と長崎バイパスでは使われ方が異なると言える。残された長崎～長崎芒塚についても4車線化の必要性は高い。

➤ 結果

- ・対応方針（原案）については了承する。

＜高速道路に関するその他の意見＞

- ・インバウンドは近年増加しており、高速道路を利用する海外の方々も増えてくることが想定される。日本語がわからない利用者に対する対応について検討しておく必要がある。

＜事業費の変更に係る説明＞

- ・近年、労務費等が高騰していることから、事業費の増額が必要となっており、事業費を増額した場合の費用便益分析について、事務局より説明を行った。

以 上